

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中での安心した生活の継続と、その人らしさを高めることを主とした理念を作っている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング・会議などで周知徹底を図っている。また、見やすいところに掲示し業務遂行している。	
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	事業所内に掲示しているしパンフレットにも明示されている。また、ホーム便りを毎月家族や協力病院等他の施設へ配布し浸透を図っている。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	民家から離れた場所に位置しているため、気軽に立ち寄るといことは難しいが町会に加入し地域活動を行い、市の文化祭にも参加し地域住民との交流を図っている。ボランティアやヘルパー実習の受入も行っているが、その際入居者の個人情報・プライバシーには十分配慮している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で話し合い作成している。評価結果を基により良いサービスの提供に向け改善できるよう取り組んでいる。	
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の現状や地域の情報交換と、自己評価及び外部評価結果を報告し改善の意見を求めている。	
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	外部評価結果を提出している。また、利用者の状況やサービスについて随時相談できるよう取り組んでいる。	
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度・地域権利擁護事業のセミナーに職員を派遣し伝達研修をしている。地域権利擁護事業は入居者1名がサービスを利用している。	
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや会議で都度虐待について勉強している。また、事業所内に虐待防止法を掲示して日常業務を遂行している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明書を基に説明し納得したうえで契約している。また、家族や利用者の意向の把握に努めている。退所については契約時に説明し同意を得ているし移行先についても事前に話し合いサービスが途切れないようにしている。	
11	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者と職員の信頼関係を築きいつでも話せ雰囲気を作るとともに運営推進会議で話せる機会を設けている。	
12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族面会時とは別に、毎月、個人の介護状況を文書で送付し、併せて報告や連絡をおこなっている。金銭管理については、個々に出納簿を作成し報告、または郵送している。	
13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議のほかに事業所内に掲示し、苦情・意見箱を設置している。また、入所時に重要事項説明書で外部に申立できることを説明している。	
14	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや会議時に意見・提案を聞いている。可能なものは実行、調整が必要なものは検討している。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の急変などに対応できるよう勤務調整を行い都度、業務の見直しを話し合っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	人事異動や離職などでユニットの配置換えや新人職員が入ったときは、継続したサービスができるよう詳細な引き継ぎをしている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
17	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要な研修には派遣し、研修後は他職員に伝達している。また、入職時のオリエンテーションなど必要に応じ内部研修や、勉強会を開き職員の質の確保・向上に取り組んでいる。		
18	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームや事業所とは行事や勉強会を通じて交流し職員の能力向上を図っている。また、外のグループホームにも訪問し情報交換を行うなどサービスの質の向上に取り組んでいる。		
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の悩みやストレスを理解するよう話を聞いている。各階には休憩室を設け気分転換を図るための環境づくりをしている。また、親睦会への助成をしている。		
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員個々の勤務、現場状況等努力や実績を考課している。資格にあった配置や職務を考えレベルアップを図るとともに、資格支援もおこなっている。。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所相談時に本人、家族と面談しニーズの把握や必要なサービスを話し合っている。	
22	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じ他の介護サービスや施設利用など、関係機関と連携しながら入所対応をしている。	
23	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所相談時及び契約時に利用者・家族の要望や意向生活習慣を聞き、安心して生活に馴染んでいけるよう工夫している。また、入所時の混乱を防ぐため、面会を多くしてもらうなど、家族に協力してもらっている。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の気持ちや状況を理解するよう努め、日常生活で日課や役割をもって貰ったり、一緒に生活することでお互いを支え合える関係を築けるよう、共同でおこなう場面をつくるようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時は必ず近況報告し家族と情報共有し、行事参加や一緒にの外出、時には外泊を勧めている。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者と家族の関係が疎遠にならないよう配慮し、遠方の家族には定期的に電話で会話してもらったり、文書で近況を報告している。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	美容院やデパート、食堂や知人の家等利用者に関わりのある染みの人や場所を聞き出かけ、社会生活を継続できるよう支援している。		
28	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	トラブルを未然に防ぐためにも、利用者同士の関係の把握と利用者間のコミュニケーションを図り良い関係を築けるよう支援している。		
29	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後も定期的に訪問したり、状況によっては別のサービスにつなげられるよう相談に応じている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	パーソン・センタード・ケアの浸透を図り、利用者の要望や意見を聞くよう心がけている。また、職員間で情報を共有し家族からも情報収集して意向の把握に努めている。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族から情報収集し、これまでの暮らし方やサービスの利用、嗜好の把握に努めている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の生活リズムや身体状況を把握し、できることは自分でするよう促し、できないことは支援、援助するようにしている。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族の意向や要望を聞き反映するよう、利用者から可能な限りアセスメントしている。また、ユニット職員で十分に話し合いをおこない、利用者や家族の意見を取り入れた個別の介護計画を作成している。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間3ヶ月で評価しているが、途中でも利用者の状態変化に応じ随時見直し、必要なら再アセスメントを行い介護計画を作成するようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のカルテに詳しく記入し、職員全員が目を通すようにしている。また、介護計画に活かせるよう情報の共有を図っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
36	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出や買い物等の要望にはできるだけ柔軟に対応している。外出できない利用者には、毎月地域にある物産館が食品等の訪問販売に訪れている。また、必要に応じ福祉用具レンタル等の販売業者との連絡調整を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
37	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防は避難訓練や救命講習等で協力。民生委員は慰問などで利用者との交流。利用者の作品展示などで文化・教育機関の場所を借りたり、ボランティアには習字・ビーズ教室の手伝いをしてもらうなど地域と協力し支援している。		
38	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じ他のケアマネジャーや事業所と連絡を取り連携、支援している。		
39	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護・成年後見制度については、社会福祉協議会と連携している。地域包括センターとは入所相談等で連携を図っている。		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の担当医師が訪問診療しているが、利用者・家族の希望する医療機関受診にも対応している。また、他の医療機関受診時も担当医に相談したり助言をもらい、家族への状態説明にも対応してもらっている。		
41 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力病院には介護療養型病床があり認知症高齢者の患者が多く、医師も認知症高齢者に理解があるので、助言・指導してくれるなど随時相談できる体制ができています。		
42 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	職員に看護師を配置し、利用者の日常的な健康管理や24時間体制で連絡相談、医療機関との調整などおこなっている。		
43 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には情報提供し、入院中も利用者の状況の把握に努め、家族や病院の担当者と随時協議し早期退院できるよう連携している。また、協力病院とは定期的に情報交換する場を設けている。		
44 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームには医療連携体制指針・看取り介護指針・急変時は緊急時対応マニュアルを整備している。		
45 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	対象となる利用者は入所していないが、今後に備え事前に担当医や家族と話し合い、検討や準備を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	介護情報提供書等で、移行先には利用者の生活習慣が損なわれないよう、詳細な情報を提供している。また家族にも協力をお願いしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>				
47	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	年長者として個人の尊厳が損なわれないよう、言葉使いや態度、プライバシーや個人情報の取り扱いには十分配慮している。		
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	意思表示が困難な利用者には、筆談や表情を観察するなどして本人の意志や希望を読み取るよう努めている。また、選択により自己決定できるように支援している。		
49	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の体調に配慮しながら、生活習慣を崩さないように支援している。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
50	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	外出時の整容の援助。また、衣類や化粧品などの買い物援助や理美容も、希望の美容院に連絡調整し送迎等行い支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みに配慮した食材を提供し、食事の盛り付け、配膳・下膳などは役割が決まっています職員と一緒にいる。施設の方針で職員は喫煙や食事摂取時の事故防止の見守りのため利用者と一緒に食事はしていない。		
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	酒・たばこは原則禁止となっているが、喫煙場所を設置し見守りで喫煙してもらい火災等事故に注意し喫煙するなど本人の嗜好はできるだけ支援するよう工夫している。		
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	安易なオムツの使用を避け、トイレで排泄するよう促している。また、必要な人には排泄パターンを記録している。トイレ誘導や失禁時は他の利用者に気づかれないよう対応している。		
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望を聞いて入浴日や時間を決めている。拒否する利用者や、体調不良で入浴できない利用者には対応を工夫しながら、生活習慣に配慮し入浴を楽しめるよう支援している。		
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その日の体調にあわせて日課を組み、生活リズムを整え安眠できるよう柔軟に対応している。眠れない利用者には安易な眠剤の服用はしないよう、眠剤の使用については医師や家族と相談のうえで調整している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の能力や生活歴にあわせて、日々の役割等依頼し促している。また、毎月講師を招いて習字教室とビーズ教室を開催し、楽しみごとや気晴らしになるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理できる利用者には自分で管理してもらっている。また、管理できない利用者にも力量に応じ少額のお金を所持してもらい、買い物ときは自分で支払いできるように支援している。		
58	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	施設の周囲は庭園で囲まれていて、いつでも散歩できるよう歩道が整備されている。また、買い物や行楽などは、利用者の身体状況を踏まえた外出先や移動方法を工夫し、できるだけ希望にそうように支援している。		
59	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者からの希望には柔軟に対応している。また、対応できないときは家族に依頼したり、内容によっては家族参加を募る等、できるだけ利用者の希望が叶えられるよう支援している。		
60	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	1階と2階に公衆電話を設置しいつでも電話がかけられるようにしている。字の書けない利用者には代筆したり、家族から電話があれば利用者との会話を促している。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の設定はしているが、家族や面会者の都合には柔軟に対応し、いつでも気軽に面会できるようにしている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
62	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや会議で都度身体拘束について勉強している。また、事業所内に具体的な行為を掲示し業務遂行している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
64	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
65	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
66	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
67	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
68	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所時に利用者のリスクについて家族に説明し対応について話し合っているが、状況に変化があったときにも家族と相談し対応策を検討している。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
70	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者一人ひとりの既往歴や持病を把握し、常に異変の兆候を見逃さないよう努めている。また、変化があったときは看護師や医師に相談し、早期の受診につなげている。		
71	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局の薬剤情報をいつでも見られるようカルテに保管している。服薬時には誤薬や飲み忘れのないよう個別に仕分けし表で確認している。また、薬の変更時は副作用に注意し観察に努めている。		
72	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分を摂るよう促したり、繊維質の多い食材を使い適度な運動を行うなど、下剤に頼らないよう工夫している。また、チェック表で排泄や排便状況を確認している。		
73	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きや義歯の洗浄をうがいを声かけし、できない人、できないことは援助している。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士が作り栄養バランスのとれたものになっている。カロリー制限されている利用者など状態に応じ栄養、水分の確保をしている。必要な人には、食事量・水分量のチェックを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	併設老健の感染症予防マニュアルに準じている。インフルエンザの予防接種は、家族の理解もあり利用者全員が接種している。また、職員は感染症対策委員会に参加し感染症の予防に努めている。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理を行うときは新鮮な食材の使用と、調理器具や食器の消毒をして衛生管理している。また、利用者の所有している食品等は、定期的に消費期限の確認をして、期限が切れているものは処分している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は、外から建物内が見渡せるようガラス張りになっていて、開放感のある造りになっている。また、入口には観葉植物を置き、明るく入りやすい雰囲気を出すようにしている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングなど共用空間には、幼稚にならないよう気を付けながら、季節感を取り入れた飾り付けをして、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各ユニットにスペースを設け、椅子やテーブルを置いて、一人で過ごしたり利用者同士で会話できるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	利用者・家族には使い慣れた家具や好みの食器な ど持ってきて貰い、本人にとって家と同じよう にくつろげる部屋になるよう工夫している。		
81	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	換気システムや空気清浄機、エアコンや床暖が設 備されているが、天候にあわせ窓を開け外気を取 り入れ換気するようにしている。また、温度と湿 度を定時に計り、外気温と大きな差がないよう空 調管理している。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	建物内はバリアフリーで要所に手すりを設置して いる。居室内は利用者の身体状況にあわせて、タ ンスやベッドなどの配置を工夫している。また、 車椅子での走行や転倒防止のため、廊下に障害物 を置かないよう気をつけている。		
83	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	場所がわからない利用者には、必要な場所に見や すいように名前を掲示したり飾りをつけたりして いる。また、居室の移動にも配慮し利用者の混乱 を防ぐように工夫している。		
84	○建物の活用  建物を利用者が楽しんだり、活動でき るように活かしている	玄関先にはベンチを用意して、外に出て休める場 所や、広い庭には散歩コースも整備してある。ま た、併設老健の設備も活用している。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

敷地内に広大な庭園があり四季折々の植物や木々を観賞できるよう歩道が整備され利用者がいつでも散歩できる。

8月は地域のねふた運行に利用者と職員が一緒に参加している。

併設の老健と合同で7月は納涼祭、10月は運動会、12月は忘年会など大規模な行事を開催している。